



# 自治連だより

第37号



鳥取市自治連合会  
会長 土橋 周美

## 決意を新たに

会員の皆様には、日頃から本会の運営及び活動に多大なご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

鳥取市自治連合会は、昭和四十九年に結成され、今年50周年という大きな節目を迎え、七月六日に記念式典と祝賀会を開催致しました。50年の歩みを振り返りますと、平成十六年十一月東部九市町村合併により、平成十九年六月に四十一地区八百三十三町内会・加入世帯数五万四千五百六十九世帯の新鳥取市自治連合会が誕生しました。現在、加入世帯数約五万二百世帯と加入世帯の減少が続いています。自治連合会では、結成50周年を契機に改めて加入促進に全力で取り組んでいく所存です。皆様の御協力宜しくお願い致します。

最近の新聞紙上では、人口減少や出生率の低下、高齢者の認知症問題などが報じられています。そうした中、改めて地域の支え合い、助け合いの重要性を再認識させられ、町内会、自治会の果たす役割は益々大きいものと認識させられます。

自治連合会といたしましても、今後とも各地域との連携や情報交換を推進し、住民相互で支え合う自治会組織の発展に努めてまいりますので、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 修立地区

#### 修立地区の

#### まちづくり活動

修立地区まちづくり協議会

会長 石本昭雄

修立地区のまちづくりについて、近年の活動状況やその特色などを簡単にご報告します。

令和五年度には、天神川あんどん桜まつり、各種団体合同交流研修会、地引網、敬老会、文化祭、花いっぱい運動、修立イルミネーション、新年互礼会などを含め多くの行事を行いました。

事業とともに、大きな組織改革として、公民館とまちづくり



「修立歴史展」資料展示

協議会の運営と財政の一体化を進めた結果、修立地区自治連をはじめ他の地区団体との協働体制も一層円滑になったと思います。

さらに、近年の特色の一つとして、修立小や東中など地域の学校との連携体制の深まりにも注目しています。

一昨年は、修立小創立二五〇周年記念事業として、地区合同運動会とともに「修立歴史展」を共同開催し、地区内外から大きな反響をいただきました。

地域に根付いてきた桜まつりのあんどんは、園児や生徒の手作りですが、小中学校でも授業として取り組んでいたが、八月の東中夕涼みプロジェクトでも、数百のあんどんが夜の校庭を飾るようになっていきます。

また、従来から敬老会や文化祭への生徒達の舞台出演はありましたが、行事の準備や運営に東中の生徒が参加してくれるようになりました。昨年の文化祭や今春の地区・修立小合同運動会でも大勢の東中生が手伝ってくれました。大人と一緒にスタッフとして働く姿は、単に手助けに留まらず、その場の雰囲気をも明るくしてくれ、大人達にも笑顔が広がる様子がよく分かりま



修立小合同運動会で働く中学生

す。

一方で、東中が開催する模擬面接や、生徒と地域住民とのトークプログラムといった試みに、民生児童委員や学校関係者だけでなく、まちづくり関係者等も参加しており、学校との連携にもすそ野の広がりを感じています。

人口減や少子高齢化をなげく昨今の地域社会ですが、こうした地域と学校双方からのアプローチの深化に、何か「将来に向けた幾筋かの光明を見てしまおう」のが、決して大げさな感想になっていなければいいなと思うばかりです。



**稲葉山地区**

**稲葉山地区の**

**まちづくり**

稲葉山地区自治会

副会長 **浦木正昭**

稲葉山地区は、鳥取市の東部に位置しており、自然豊かな農山村地域と比較的住宅の多い市街化区域が混在する地域です。地区の中心である稲葉山小学校は、令和五年八月創立70周年を迎え、地域とのつながりを大切にしながら今後も成長しています。「地域の仲間づくり事業」「にぎわいづくり事業」「農・住いきいき交流会事業」などがあり、創作、ウオーキング、米作り、野菜作りなど多岐にわたり地域住民の交流の場を設けています。米作りでは、田んぼと農家の方の力を借りて田植えから脱穀までの作業を大人と小学生が体験します。昔ながらの人手作業



米づくり



獅子舞学習講座

ですが、交流を図っています。

稲葉山小学校には、コミュニティ・スクール（以下コミスクという）があります。毎週木曜日に開設しているのがいなほコミスク・ルームであり、地域の大人と子どものふれあいの場として集まっています。コミスクでは、子ども達と地域の大人が協働作業を行います、綿作り、梅ジュース作り、大根パーティーなどを行っています。コミスク・スタディでは、地域の大人がシイタケの植菌など実地体験しながら教えています。

次に町内の活動の一つを紹介いたします。因幡地方の民俗芸能の一つに麒麟獅子舞があります。稲葉山地区には、途切れた子ども獅子舞を復活させた保存会が活動しており、稲葉山小学校の学習の中で講座を開き、子ども達の認知と理解を深め、参加者の募集も行い、垣根を超えた仲間づくりを行っています。

**河原地区**

**「河原地区防災訓練」**

河原町自治会会長

会長 **木下 敬**

河原地区では、少子高齢化が進む中で「まちづくり」が課題となっていますが、一部地域では、新規に造成された宅地の住民が加わるなどの動きもみえます。北部地域では、工業団地造成による企業の進出、スーパーマーケットなどの進出による業務地域が形成されつつあり、まちづくりの新たな対応が求められています。

河原地区まちづくり協議会では、令和六年六月八日、地震及び土砂災害を想定しての避難訓練を実施しました。「鳥取県東部を震源とした震度6強の地震発生」を想定し、鳥取市災害対策本部から各自治会（部落）に「避難指示」が出されたとの設定で避難訓練を行いました。各自治会では、近所同士声を掛け合いながらお互いの安否を確認し、各自治会で決めた避難場所に避難する訓練を行いました。特に、自治会役員

やご近所さんによる外部からの安否確認がスムーズに行われるよう、各世帯においては、自宅内にいる者の無事（救助など）の必要がない状況）を知らせる方法として「黄色いハンカチ（大きく目立つ大きい布）」を玄関先に掲げる



玄関先に黄色いハンカチを掲示

る「かわはら芝公園」においては、イベントを実施しました。水消火器を利用した初期消火訓練、八頭消防署による消火訓練、防災グッズの展示、テント設営・火おこし体験、非常食の試食などを行いました。



防災訓練イベント会場「かわはら芝公園」

訓練終了後、河原地区まちづくり協議会では、各自治会にアンケートを実施しました。同協議会では、河原町総合支所対策本部から「避難指示」が出された時点から地区住民が避難完了するまで、各自治会の対応内容・結果を検証し、実態に即した改善策を検討することとしています。

訓練も同時に進行しました。また、避難訓練のメイン会場



## 大和地区

### 大和地区まちづくり協議会

協議会

大和地区公民館

館長 中村 徹

大和地区まちづくり協議会は、地域力の向上をめざし、平成二十年四月に「大和地域づくり活性化協議会」として発足、その後「大和地区まちづくり協議会」と改名し、地域の活性化を推進しています。

設立から十五年が経過し、少子高齢化による人口減少、小・中学校の統合移転、路線バスの廃止、地域のつながりの希薄化など、地域を取り巻く環境は益々厳しさを増しています。

今年度「まなびの成果を生かした地域共生社会」を目指し、組織体制と事業を見直して、公民館事業とまちづくり事業を一本化し、五つのスローガンをもとにまちづくりを進めています。

#### 大和地区まちづくり協議会

スローガン

- 1 生涯学習の推進による人づくり
- 2 人権と福祉のまちづくり・ふれあいづくり
- 3 健康づくりでまちづくり
- 4 安心安全なまちづくり
- 5 環境整備されたまちづくり



大和ふれあいタクシー利用風景

四月の敬老会での地元出身の講師 師旭堂一海さんの講演会を皮切りに、ものづくり教室や文化歴史教室、人権啓発活動の推進などで人づくりを進め、文化祭で各教室での成果を発表し合うとともに地区住民がふれあう機会づくりを進めていきます。

また、近年増加している自然災害に対する防災訓練の拡充や路線バスの廃止に伴って平成三十一年に運行開始した大和ふれあいタクシーの運行を行っています。



祝 大和地区敬老会

敬老会 講師師旭堂一海講演会

## 国府地区

### みんなで参加！ みんなで楽しい！

みんなで参加！  
みんなで楽しい！

宮下地区公民館運営委員会

会長 井上豊明

宮下地区は鳥取市の東側に隣接し、袋川の清流に恵まれた、自然豊かな田園地帯にあり、多くの文化史跡、地域財産を守りながら、町内十七自治会と公民館運営委員会が、まちづくりの活動拠点として取り組んでいます。公民館活動として次の三部会で、各種事業を実施しています。

#### ○子どもと大人のふれあい事業

五月に校区大運動会が開催され、宮ノ下小四、五年生を対象に、伝統芸能の伝承として手笠踊り、傘踊りクラブによる因幡の傘踊りが、練習の成果として披露されました。

昨年七月には夏の風物詩、地区七夕まつりが開催されアトラクション、キッチンカーによる出店、踊りがあり、



令和6年5月地区大運動会



令和5年度納涼祭

会場内には各自治会の子ども会が制作した色とりどりの七夕が飾られ、審査もあり、多くの来場者で賑わいました。

#### ○特色のある公民館

十一月四、五日の二日間地区公民館で文化祭が開催され、公民館、地域で活動しているサークル、保育園、個人が制作した作品が展示され、多数の来場者で賑わいました。

#### ○地域の仲間づくり事業

因幡国庁跡では、六月にさつきグラウンドゴルフ大会が開催され、九月の中秋の名月の頃、「お月見会」が開催されます。会場内には屋台、朗唱、花火と催しが目意され、秋の一夜を過ごします。以上三部会を中心に各事業に思いやりとボランティアの精神で自ら進んで参加し、地域活動に取り組み、人とのつながりを大切に住みよいまちづくりを目指しています。

醇風地区

その名も古く

「鹿野町（まち）」

片原五丁目三区(旧鹿野)町内会

会長 米村 耕一

わが町内は、醇風小学校の西側に隣接し、鹿野街道に面した四十九世帯からなる比較的小さな区域の町内会です。



大森神社宵宮参拝（オイヤサー）

旧町名の

「鹿野町」の歴史は古く、その名は元和五年（一六一九年）まで遡り、令和元年をもって四〇〇年経過したことになります。

町名の由来は、鳥取から鹿野（現鳥取市鹿野町）への道筋の起点にあたることによるとのことです。（出典・因幡誌）  
現在、町内会では通常の会務と自主防災会事業以外に四つの年中行事を行っています。

一、春の観桜会

町内の鹿野町公園の満開の桜の下で宴席を設けます。

二、大森神社の宵宮参拝（オイヤサー）

お神輿を台車に乗せ、提灯行列を仕

立てて「オイヤサー、オイヤサー」と唱えながら宵宮参拝を行い、町内安全を祈願します。

三、夏の納涼盆踊り大会

第一回は鳥取しゃんしゃん祭りと同じ年に始まり、本来今年が六十回のはずでしたが、コロナ禍で三年間中止したため、今年が五十七回目です。

四、秋のレクリエーション

温泉施設等で昼食会、入浴、ゲーム等のレクリエーションを実施しています。少子高齢化に伴い、以前はあった子ども会、青年会、婦人会といった組織が維持できなくなりましたが、前記諸行事の実施のほかに、防災会活動として春秋の防災訓練、毎月の防犯パトロールの実施等を通じて、町内の親睦と連携調和を図っていきたいと思います。



納涼盆踊り大会

鳥取県自治会連合会の動き

令和五年度

◆中四国ブロック会研修会（二月十五日、広島県福山市）

広島県福山市において各県連合会の

代表者等百五十四名が集い開催され、鳥取県自治会連合会から十一名が参加した。岡山・香川二県の代表者が、「自治会活動のデジタル化」をテーマにそれぞれ現状と課題について取組みを紹介した。

令和六年度

◆令和五年度監査会（四月四日、米子市）

◆第一回正副会長会（四月二十五日、倉吉市役所）

◆令和六年度総会及び研修会（五月二十八日、米子市役所）

◎総会

・令和五年度事業報告及び収支決算報告、監査報告

・令和六年度事業計画（案）及び収支予算（案）

・役員選出

会長	生田 均	(倉吉)
副会長	土橋 周美	(鳥取)
副会長	田邊 忠雄	(米子)
理事	米舛 隆生	(倉吉)
理事	明里 利彦	(倉吉)
理事	米田 清隆	(倉吉)
理事	西原 牧夫	(鳥取)
理事	水田 憲夫	(鳥取)
理事	谷口 真澄	(鳥取)
理事	森田 松雄	(鳥取)
理事	稲田 宗万	(鳥取)
理事	高野 和男	(米子)
理事	近藤 豊	(米子)
理事	松本 眞	(米子)
理事	内藤 英二	(米子)
理事	安長 章	(倉吉)
監事	黒川 泰	(倉吉)

◎研修会

テーマ「和町ケア会議の取組について」～8年の歩み～  
講師 米子市和町公民館 館長 西井 通氏

和町地区社会福祉協議会 会長 安達 優氏

後記

新型コロナウイルス感染症の位置付けが、昨年五月八日に「5類感染症」に変更されてから、一年が過ぎました。昨年の後半くらいから、以前の平穏を取り戻しつつあり、自重していた行事も復活して以前の賑わいを取り戻しつつあります。ただ、コロナ禍が世の中に残して行ったものは少なくはなく、冠婚葬祭の儀式内容や会合での飲食など、コロナ禍以前とは様相がだいぶ変わってきたように思います。

(広報委員長 森田 松雄)